

アクセシビリ

2018年1月19日

北星学園大学

アクセシビリティ支援室通信

第7号

2018年、新しい年を迎えましたね。

今年一年も皆さんにとって良い年となりますように。

今号では、「こんなときどうする?」と支援機器の紹介をします。



「こんなとき、どうする?」



Q: ゼミや授業内でのグループワークで聴覚に障害のある学生と話すとき、

どうしたらいいのでしょうか?

A: いくつかの方法があります。いずれも**教員・学生のみなさんの協力が必要**です。

①ブギーボード(裏面参照)を使用しながら、筆談する方法。

②手話ができる場合には、手話通訳を行う。

(本学では手話通訳者がおらず、PCノートテイク(④参照)を行っています)

③2017年4月号で紹介した「デジタルワイヤレス補聴援助システム」を使用している場合、送信機と数本のマイクを使用する事ができます。



****注意点**** マイクがあるから大丈夫...ではなく、

- ・マイクは口元から5cmから15cm程度離して持つ。
- ・マイクヘッド部分を持たずに話す。
- ・発言者が誰かわかるように、手をあげ自分の名前を言ってから話す。
- ・複数人で同時に話すのではなく、一人ずつ発言する。(複数人の発言を同時にひろうことはできません)



***マイクヘッド部分(黒色部分)を手で覆わないようにしてください。**

(音をひろうことができません)

写真:
PHONAK
ロジャー・ダイナマイク



④本学ではPCノートテイクがあり、みなさんの話を要約筆記します。

****注意点****

- ・発言者が誰かわかるように、手をあげ自分の名前を言ってから話す。(誰が何を話しているかまでノートテイクしているため)
- ・発言と文字を入力する間には遅れが生じます。そのため、情報も少し遅れて伝わっていくことを考えながら発言する必要があります。

例えば...

☆パソコン入力者(テイク)が先の発言を要約筆記(通訳)し終わったのを確認してから発言する。

☆発言する時には、一呼吸おき、ゆっくりと話すように心がける。 など





いろいろある支援機器

「筆談用電子メモパッド」



・・・コミュニケーション・筆談ツール・・・

このようなボードを
見たことがありますか？



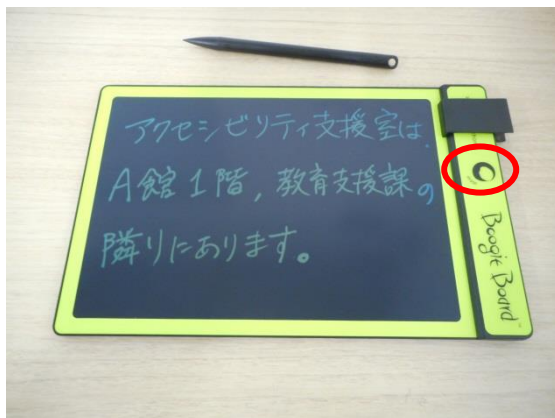
本学では、KINGJIMの「ブギーボード」
を使用しています。

これは、ボード(液晶画面)に書き、
ボタンで消すことができ、何度も繰り返し
使用できます。

薄くて、カバンに入れて持ち運びが
可能です。大きさもいろいろあり、電池
式タイプもあります。



<↑↑本学で使用しているタイプ↑↑>



<使い方>

- ① 専用のペンで液晶画面に直接書き込みをする。
- ② 書き終わったら、上部にあるボタン(○囲み部分)を押すと瞬時に画面の内容が消去される。

(画面の内容はボタンを押すまで保持されます)



アクセシビリティ支援室

- **開室時間**(平日) 8:45~11:30
12:30~17:00
- 窓口のほか、電話やメールでも相談を受付しています。お気軽にご連絡ください。
電話:011-891-2731(代表)
mail:acc-support@hokusei.ac.jp

!サポートスタッフ募集中!

利用学生を助ける学生サポートスタッフを
随時募集しています。
講習会に参加して頂き、その後スタッフ
として活動して頂きます(有償)。
あなたもサポートスタッフとして活動して
みませんか?
例)ノートテイク、教室移動のサポート、
資料などの文字起こし、等

